

## [制作記録]

## 個展 「五つの部屋」

岩 田 崇

2004年3月20日から30日、石川県七尾美術館で個展「五つの部屋」を開催した。いろいろな複雑な思いを噛み締めながら団体展を退会したのち、自分にどれだけの可能性が残されているのかという期待と不安の中、ただ実践あるのみと個展を決意した。院展に挑戦していたころの細かい描写が出来ず、絵描きとしての限界を意識し出した時に、逆に今出来ることは何かと自問自答した結果、幾つかの表現方法が浮かんだ。そのどれもが棄て難く、だが混在した形で発表すれば、画風が定まらないとの批判は必定。しかし、多くの絵描きが十年一日のように同じような絵を描き続けている。すなわち一つの画風を掲げて、他との住み分けをしながら、安住の地を作り出していることの不思議さを感じていたから、一つに絞るのではなく、多方面の表現を試してみることにした。美術館の会場を下見すると、五つの部屋が連結するように配置されているので、当然のようにして五つのテーマで纏めることにした。36作品51点のうち5作品以外をすべて一年以内に制作するという厳しいものであったが、自分で課した負荷を乗り越えるのも喜びとばかりに制作に入った。

第一室は「晴朗」。単純明快な形態を組み合わせ、それでいて緊張感に満ちた画面を作るためには、絵肌が強い力を発するものでなければならない。それには岩絵具の美しさと粗い粒子の絵具の特性を生かすことに腐心した。

第三室は「荘厳」。すでに発表した6枚組の荘厳を中心に構成。金沢の金箔を取り入れ、説明的空間の省略によって、より強く空間感を空想する装置としての提示を試みた。

第四室は「試」。様々な技法で表現したメッセージを、縦線で秩序を維持しながら、全体を連結させ

る工夫など、特に和紙と墨・不織布・寒冷紗などを貼り重ねることで、地味な色彩に力強さと素材に対する親近感など、抽象的なものへの抵抗感を少なくするように配慮した。

第五室は「似有途里乃」。ニュートリノのイメージを飛天に置き換えて、心の世界を自由に行き来する構想。

最後まで悩んだのは第二室の「浄」。全体を見渡しても何かまだ物足りなさを感じた。それは何かと。単純化や抽象化、部屋ごとの主題と変化を求めて来た。更に新しい試みを加えることも考えたが、鑑賞者が身構えることなく、誰もが見たことのあるような記憶を呼び覚ますものとして、能登の風景を描くことにした。この時点では赤色系が使われていないので朱鷺色、しかも円形の大画面に挑戦してみた。この円形の作品を引き立てるために、縦のみの寸法が同じで、横の長さが違うサイズのパネルを連結させて構成した。

結果は、杞憂を吹き飛ばすほどの好評を得ることが出来た。特に部屋ごとの変化を楽しんでいただき、全体としても感動起動装置として理解していただけたものと思う。廊下に展示した粒子の粗い絵具の特性を示した展示も、大変興味を引いたようである。搬入搬出、展示、図録の作成と多くの人たちの献身的なご協力を得られたことや、最終日999人まで来場者をカウントできたが、終了時間5分前に韓国からの留学生たちが駆けつけてくれて、千人の大台を超えることができたという感動的なドラマで終了することが出来た。後日、美術館へ挨拶に出向いたが、帰り際居合わせた館員全員でお見送りをいただいた。長谷川等伯の出身地の美術館で、等伯の研究も素晴らしく、よく行き届いた美術館であるが、私

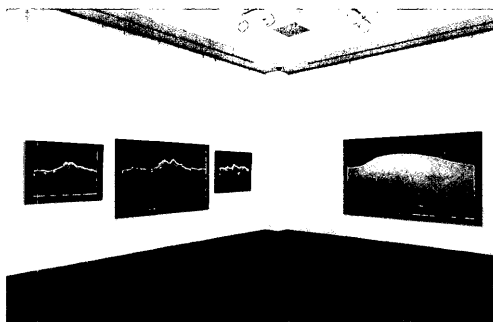
の表現する空間感は、等伯の松林図屏風から得たもので、この美術館で個展を開催し、更に一定の評価を得られたことを素直に喜びとするものである。

余談ではあるが、鑑賞者が作品に深い関心を示し始めて、一度ご覧になってから更に二度お回りになり、そして感動のお気持ちを隠されずに、長い時間を過ごされる方がたくさんいられたことに驚いた。また画風の違う表現であっても、五つの部屋という標題からして、ほとんど違和感なく受け入れられたものと思う。遠方の絵描き仲間へ図録を送付し

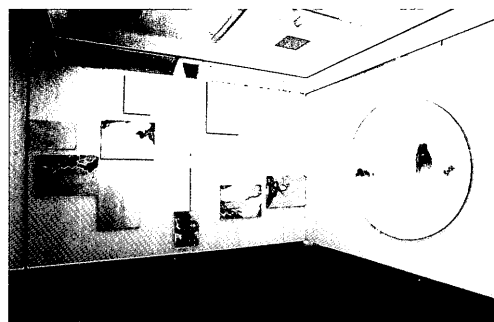
たが、返礼の多くにその巻末に掲載した「なぜ今、日本画なのか」の拙文（本紀要17頁以下に再録）にたいして、同感の気持ちが綴られていた事も大きな自信になるものであった。またお世話になった方だけをお呼びしたオープニングパーティーでは、自由な感想が述べられ、器楽の演奏と共に心に残るものとなった。私にとっては準備から終了までが一連の作品として完成したのであった。

(いわた・たかし 日本画)

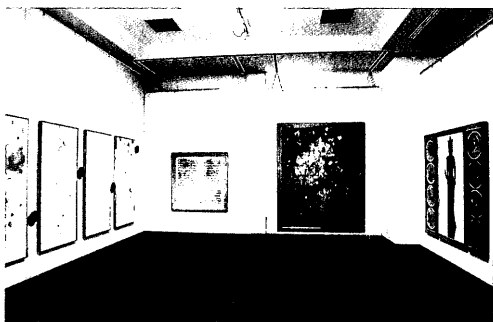
### 個展「五つの部屋」会場風景



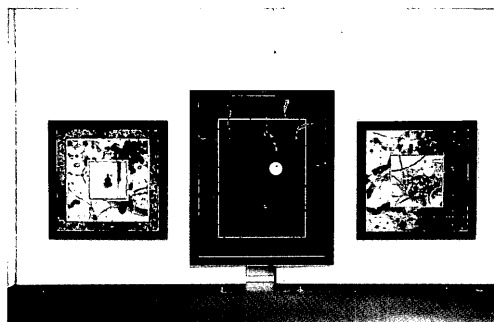
第1室 晴朗



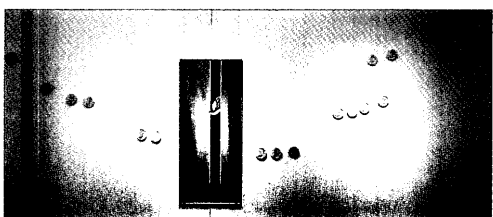
第2室 浄



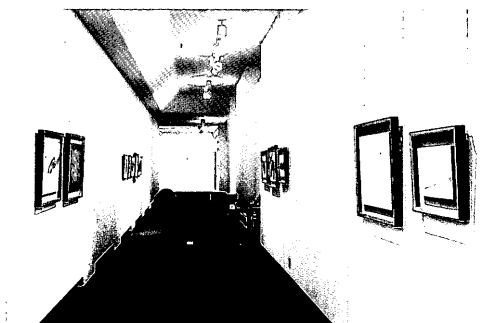
第3室 荘厳



第4室 試



第5室 似有途里乃



廊下展示